

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.97

2008/3

「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。



1 page [特集] 吉野川アラカルト

ふる〜ぶめいとリーダーと訪ねた
吉野川源流域大川村。

194kmの雄大な流れを誇る四国三郎「吉野川」。
ふる〜ぶめいとリーダーとともに、
四国の真ん中、「高知県土佐郡大川村」を訪ねました。

3 page 吉野川いまむかし 吉野川の渡し編Ⅳ

4 page ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す! 脇町小学校の巻 「1年をかけて吉野川を学習。」

5 page ふる〜ぶめいと通信 大野寺の虚空蔵尊 初会式

6 page Ra♪Ra♪Ra♪ エッセイ レッツ トライ ハーブクッキング

ふる〜ぶ INFORMATION

宮内小学校 杉村ヒロ子先生よりお便りをいただきました。
創作ダンスで水のたびを表現

7 page よりよい吉野川づくり<第34回> 吉野川水系河川整備計画【再修正素案】について、 ご意見を伺っています

ふる〜ぶひろば
編集後記・今月の表紙イラスト・プレゼント



ふる～ぶめいとリーダーと訪ねた 吉野川源流域大川村。

194kmの雄大な流れを誇る四国三郎「吉野川」。

源流域には「四国の水がめ」といわれている早明浦ダムがあり、美しい渓谷や豊かな自然が広がっています。

今回は、いつもイベントや紙面づくりに協力していただいている

ふる～ぶめいとリーダーとともに、ミーティングをかねて、

平成19年11月18日、四国の真ん中、

大自然とふれあう村「高知県土佐郡大川村」を訪ねました。



一水源の森へー

今回のミーティングの大きな目的は、吉野川の源流域を知ること。ふる～ぶめいとリーダーも大川村を訪れるのは初めてという方がほとんど。「山の事なら話せますけん、大川村に来てください。お待ちしております」と言ってくださったのは、れいほくNPO理事長の筒井啓一郎さん。定期的な森林間伐、イベントの開催、吉野川上流域と下流域で活動するNPO団体などとの交流のほか、様々な活動を行っています。

訪れた日は、れいほくNPOや水資源機構吉野川局をはじめとする「さめうら水源の森ネットワーク」の方々、徳島河川国道事務所や下流域のNPO団体なども参加し、一緒に植樹や間伐作業などが行われていました。「さめうら水源の森ネットワーク」

は、吉野川の豊かな水を守り、「四国はひとつ」の理念のもと、森林整備や間伐材の利用促進等、健全な森づくりの先導的役割を果たすことを目的に、平成17年に発足しました。活動の拠点となるのが「さめうら水源の森演習林」



手作りのテーブルとイス

です。水源の森演習林は、早明浦ダムの西に位置し、落差100mを有する小金滝が向かい側の山腹に望める、景

観の素晴らしいところ。

演習林広場には、訪れた方々と交流ができるように、間伐材で作られたテーブルと丸太のイスも置かれていました。

森林整備活動の説明を聞いた後に見た森は、木と木の間に太陽の光がさんさんと当たり、明るくなっている

ことに気がつきました。間伐を行うことによって日当たりが良くなり、木が

大きく育つとともに

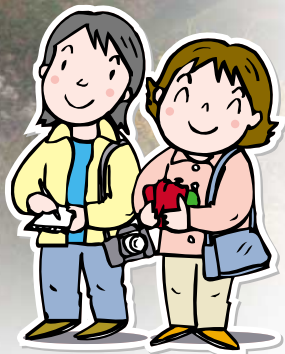
多種多様な植物が繁茂し、豊かな森が作られていくことになります。「四国に住む私達に多くの恩恵をもたらせてくれる吉野川。その清流を守るため、源流域の森や自然、人々の営みを含めて知ってもらい、多くの方々が協働して水源の森を育てていくことは、四国全域を豊かにすることにつながっていくんです」と筒井さん。実際に大川村を訪ねることにより、自然や源流の森があり、そこから流れ出す豊かな水が清流吉野川となって、流域全体が大きな恩恵を受けているということがよく分かりました。

一れいほくハ菜ー

今回の訪問では、JA土佐れいほくの皆さんが「れいほくハ菜」の試食を用意してくださっていました。「れいほくハ菜」は、嶺北五ヶ町村（大川村・土佐町・本山町・大豊町・いの町〈旧本川村〉）で作られ、JA土佐れいほくが定めている基準をクリアした野菜だけにつけられる野菜のブランドマーク。



水源の森にて



キャッチコピーは、「環境を守り、伝える“ものづくり”」。この他にも「れいほく^{まる}ハ〇」シリーズとして、「八^は稲^は」「八^は花^は」「八^は恵^は」「八^は草^は」「八^は里^は」「八^は直^は」を全国に発信しています。



れいほくの恵みがつまったピザ

試食させていただいたのは、米ナスをベースにしたピザ。米ナス、トマト、パプリカ、赤ピーマンが材料として使われています。みずみずしく、一口いただくと、野菜とチーズの美味しさが広がりました。ふる～ぶめいとリーダーの皆さんも「おいしい」と笑顔です。農薬や化学肥料を減らすため、発生す



この日いただいた野菜。れいほく八菜のブランドマークは、このほかレタス、ホウレンソウ、トマトなどにつけられている

る害虫を食べる天敵（カメムシ、テントウムシなど）を利用して栽培をしたり、蜂を使って受粉させたりするなど、環境への負荷を減らしていこうという取り組みが行われています。れいほくの地域特性を活かし、工夫することにより、自然のおいしさがたっぷりの野菜が栽培されていることが分かりました。

—原木しいたけ採り体験—

大川村の自然を活かした『おいしい!』の現場にでかけるのも今回の大川村取材の目的でした。そのひとつが『原木しいたけ採り体験』です。

原木に生えているしいたけを実際に採るという貴重な体験をさせていただいたのは、大川村森林組合にご紹介いただいた近藤久寿長さんのお宅。今回は、息子さんである近藤臣敏さんが対応してくださいました。

「まず、山にいきましょうか」臣敏さんの声に、落ち葉がいっぱいでふかふかの地面を踏みしめ、全員で山に入っていきました。斜面に沿うように積み上げられた原木。そこには、大きいもの、小さいもの、いろいろな大きさのしいたけが生えています。ふる～ぶめいとリーダーの皆さんは、さっそくしいたけ採りに挑戦!「なかなかとれないなあ」しっかりと生えているしいたけ。生命力の強さを実感したようです。

森林資源が豊富な地区ならではの原木しいたけ。実は収穫までには、大変な時間がかかっているのです。前年の11月頃山に入り、シデやナラなどの原木を切り、3月頃まで山で乾かします。その後、4月から5月にかけて、しいたけの菌をつけたコマ(木片)のようなものを打ちこみます。その後、日陰に1年間その木を置き、その年の秋から収穫が出来るようになるそうです。ハウス栽培の場合は、強制的に原木を水の中にしずめ、ハウスに戻します。

原木しいたけの特徴は、肉厚で、弾



お話をうかがった近藤臣敏さん

力がある

こと。家に帰って、バター焼にして食べたしいたけは、肉厚でしっかりと歯ごたえがあり、プリプリでした。

近藤臣敏さんは、大川村を元気にしようと活動しているグループの一員。この大川村でも、以前は多くの家でしいたけを作り、乾燥しいたけにして出荷していました。しかし、今では自宅で食べる分を作っている家はあるものの、出荷しているのは、近藤さん宅を含め数軒だけとなりました。今回、初めてこのような試みをしてくださったのですが、「今後も機会があれば、このような試みをやっていくのもいいかなあ」とおっしゃっていました。

山の恵みをいっぱいいただいた楽しいしいたけ採りでした。

によきによきと生えているしいたけ。意外と採るのに力がいる



しいたけ採り初体験。かなり急勾配

吉野川の渡し編Ⅳ

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

吉野川の渡し展（徳島県立博物館と吉野川渡し研究会の共同開催）で
平成18年2月18日～3月19日に展示されたものの中から紹介します。
渡しは橋や鉄道がなかった時代、重要な交通の手段でした。
文化や習慣も運ぶ役割を果たしていました。
昔の写真はすべて徳島県立文書館所有のものです。

昔



今



阿波市阿波町岩津と吉野川市山川町船戸を結ぶ岩津橋の完成により、昭和33年8月に岩津渡しは廃止となりました。

昔



今



美馬市協町小島橋下流約200mのところの渡し場。
渡しの遺構は見あたりません。

吉野川 いま むかし



岩津渡し

撫養・伊予街道と接し、阿波と讃岐を結ぶ交通の要所として、人や物資の往来が多かった渡しとして知られています。徳島と池田の間に位置する、川幅の狭い渡しでした（約150m）。幕末に喜田氏が賃取り橋を作りましたが間もなく流失し、渡し船が復活しました。昭和25年（1950）3月、ポンポン船と言われる発動機船になってからは、1分半で川を渡ることができ、大変便利になったといわれています。



おしま 小島渡し

美馬市協町岩倉と美馬市穴吹町小島を結んでいた渡し。文政2年（1819）の絵図にも描かれ、香川県塩江にも通じる渡しでした。大正8年（1919）頃には岡田式渡船となり、昭和26年（1951）6月から県営となり運行されました。

ふる〜ぶ 編集部が おじゃましま〜す!

協町 小学校 の巻

江戸時代には、藍の集散地として栄え、藍商人たちが繁栄を競うようにあげた「うだつ」。そのうだつの街並みで知られる協町にあるのが協町小学校です。

この協町小学校で、4年生松組、5年生松組と竹組が今年1年間をかけ吉野川についての学習を行いました。もとも4年生の社会科で『水』について学ぶ単元があったこと、そして、学校の近くに大きな学習の場となる吉野川があったことがきっかけです。

吉野川について学ぶことが決まった時、「吉野川に行ってみよう」と、平成19年6月20日に吉野川に遊びに出かけました。魚や鳥を見たり、水遊びをしたりして(なかには、本当に泳いでいる子もいたとか)吉野川を満喫。たっぴり2時間経過していたとか。魚では、ヨシノボリ、カワエビなどを見ることができたそうです。その後、今回お話をうかがった武田先生のクラスである4年松組では、教室へ帰り、子どもたちが吉野川についてしたいことを紙に書き、それをもとに何を学習したいか、グループ分けを行いました。「そのグループは、●吉野川で見られる野鳥について●吉野川と岩石について●水質について●竹や竹細工について●水生生物と生き物について」の5つです。

取材日の12月13日は、国土交通省の流域講座の一環として、国土交通省徳島河川国道事務所 河川・溪流環境アドバイザー小林寛先



水生生物調査の様子



12月13日の流域講座。みんな熱心に先生のお話を聞いている

生が、事務所発行の吉野川の野鳥ガイドブックを利用して、吉野川で見られる親しみのある鳥をピックアップし、鳥の姿や、鳴き声などを説明する形で授業が行われました。河川水辺の国勢調査によれば、吉野川で約110種類の鳥が確認されており、このガイドブックには、その中から、比較的に見つけやすい41種類が掲載されています。

「この鳥は知ってるかな?」「カワセミ〜」など先生の問いかけに声上がり、元気な子どもたちに先生も楽しそうに説明をしていました。様々な鳥について知ることができ、また、キジが命をかけてひなを守った話には感銘をうけたようで、熱心に聞き入っていました。

夏には、この日と同じ国土交通省の流域講座として、水生生物調査、竹細工教室、また鳴門教育大学の村田教授の出前授業で吉野川の岩石についてなど、ゲストティーチャーを招いて吉野川としっかりと向かい合い、学んできたこの1年間。「子どもたちは、熱心に取り組んでいます」と武田先生。子どもたちが興味、関心を持って得た知識はどんどん栄養になっていることを実感されているようです。

子どもたちのいきいきとした瞳に、未来の吉野川の担い手が誕生したことを感じ、とてもうれしい気分になって、学校をあとにしました。ふるさと協町、そして吉野川を愛し続けてくれることを願いつつ……



みんなで記念撮影



ふる〜ぶめいとリーダー 長江さんによる竹の講座



小林先生
スライドを見て、説明する

吉野川ミニ辞典

は

はいすい

排水ポンプ場(排水機場)

はいすい きじょう

台風などの大雨により、吉野川の水位が高くなった場合、排水門(樋門・樋管)などを閉めてしまうと、堤防の居住地側に降った雨水は、吉野川に出て行くことができなくなります。このことによって、堤防より居住地側で氾濫が生じることがあり、

これを防ぐために排水ポンプ場があります。

排水ポンプ場は、堤防より居住地側にたまった水を強制的にポンプでくみ上げ、吐き出す役割を持っています。

現在、吉野川及び旧吉野川・今切川では国管理の排水門が86施設、排水ポンプ場が15施設あります。



「ふる～ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる～ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる～ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと レポート

大野寺の虚空蔵尊 初会式

阿波市 森 澄子さん

1月13日、市場町山野上・大野寺で虚空蔵尊の参拝や縁日がありました。露天や植木市があり、同時開催の寺宝展では南北朝時代の不動明王図や渡辺華山や清原貫魚などの江戸時代に書かれた作品や仏画などの掛軸が出版され大勢の人が訪れました。

大野寺の寺伝によると、虚空蔵堂は平安時代に建立されたといわれ、真福寺虚空堂と呼ばれていて慶長9年(1604)香美村検地帳には、その名がのっています。それ以前でも天正3年(1575)真言宗香美虚空蔵院と古文書にあり、また虚空蔵庵と呼ばれたりして、享保年間(1716～1736)には田淵に移転、昭和21年には、大野寺内に移転されました。

大正13年発行の阿波郡誌には、「香美の虚空蔵の縁日にて農具市賑々し近郊の人々参詣し福俵を買い帰ってこれを神棚に供えるもの多し」と載っています。1月15日は、昔は小正月といい、この虚空蔵尊の縁日は、お正月に付随した年中行事となっていたのではないのでしょうか？



絹本着色 光明真言曼陀羅 (江戸時代)



※にぎわうこと



ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる～ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

レッツトライ ハーブクッキング

春です。厳しい冬の寒さに耐えていた植物達の目覚めの時です。冬の間に、休眠(植物が生長を一時休止すること。種子、球根、冬芽などの状態で休眠し、生育しにくい環境条件を乗り越えるものが多い)期にあったハーブ達にも待望の時です。読者の皆様方のご家庭で作られている「我が家の味」にも、ハーブをプラスすることで、また、新しい世界が広がることと思います。今回はやわらかい春の野菜やハーブをふんだんに使った一品をご紹介します。



鯖の香草サラダと、いのしし肉のポトフ(牛肉、豚肉、鶏肉でも可)と、前菜三種盛り(コーンのソテー、スタチ金、野菜のマリネ、タイムの香り、若鶏のロティ、ローズマリーの香り)

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

どうぞお試しください。

作り方

- ①まず、魚をスライスする。
- ②きのこは軽くフライパンで炒める。
- ③サラダ用の野菜は洗って細かくちぎり、水切りしておく。
- ④大皿に魚、きのこ、サラダ用の野菜とプチトマト、香草を盛り付け、食べるときにエキストラバージンオイルとバルメザンチーズをふりかけ混ぜ合わせて各自皿に盛る。

鯖の香草サラダ

(今回は鯖ですが、味のついた魚であるスモークサーモンやネギトロでも作れます。)

- ◆しめ鯖……………200g
- ◆バルメザンチーズ……………20g
- ◆エキストラバージンオイル…適量
- ◆エリンギ他きのこ……………100g
- ◆プチトマト……………4～5個
- ◆好みのサラダに使える野菜適量
- ◆香草 セルフィーユ、チコリ、セルパチコ、デトロイト、イタリアンパセリ、クレソン、シブレットなど手に入るもの。

材料
[4～5人前]



ふる～ぶ3姉弟妹の Information

宮内小学校 杉村ヒロ子先生よりお便りをいただきました。 創作ダンスで水のたびを表現

宮内小学校は、『四国一の清流・穴吹川』の中流域にある全校児童34名の学校です。毎日潜水橋を渡って通学したり、親子で魚釣りや水遊びを楽しんだりする子どもたちにとって穴吹川は大変身近な川です。また、水質検査や生き物調べ、森林と川のはたらきなどを学ぶ場でもあります。

今回、そのふるさと穴吹川から発信し、吉野川、鳴門の渦潮へと続く水の旅をダンスで表現しました。全校生で取り組む創作ダンス『水のたび34～ふるさとからの発信～』です。

動きのイメージをふくらませるために、穴吹川や松茂町月見ヶ丘海岸で遊んだり、観潮船に搭乗したりといった体験をしました。また、吉野川の四季を通じた表情をビデオ視聴したり、穴吹川の今と昔について地域の方に話していただきました。カニの動きや流れの緩急、うずのでき方など踊りを創り上げていく中で、子どもたちに集中力が付き、仲間とのつながりが深まるとともに、踊る喜びを感じることができました。

子どもたちのダンスは、平成19年11月29日、徳島県郷土文化会館で開催された全国女子体育研究大会徳島大会の公開演技の中で発表しました。「とても緊張したけど、最後まで頑張れて良かった」「一人一人の心がひとつになったから成功できたと思う」と、みんなでひとつのことに取り組み、やり遂げたことへの満足感と自信にあふれた笑顔が見られました。34人の子どもたちの演技は、大きな感動をよびました。



全国女子体育研究大会徳島大会での演技



吉野川水系河川整備計画【再修正素案】について、ご意見を伺っています

1月と2月に開催した各会場での主な意見は以下の通りです。

第3回 吉野川流域住民の意見を聴く会での主な意見	下流域・徳島市会場（環境・維持管理） 開催日…平成20年1月14日
	◆吉野川的环境については、水質だけではなく水量も大切だ。水質については素案に記載されているが、維持流量についても記載してほしい。 ◆アユは吉野川における代表的な指標生物として、整備計画内に記載すべきである。 ◆自然を守ることは大事だが、その根底となる考え方は、人の命や財産を守り、将来にわたって人が生きていけるようにすることだと思う。 ◆森林の土砂流出抑制の機能など、最新の知見に基づいた対策についても検討する必要がある。
	中流域・美馬市会場 開催日…平成20年1月20日
	◆毛田地先の整備をいつ実施してくれるのか。◆吉野川北岸の遊水地で面積や被害が大きいのは沼田地区と思っている。無堤地区の早期着工をお願いしたい。 ◆美馬町（芝生堤防）の築堤完了後、広大な河川敷ができ、県西部の拠点として地域の活性化を図りたいと考えている。 ◆10年間の計画が示されたのでありがたい。予算確保を行い、事業を進めてほしい。 ◆吉野川らしさは竹林の景観にあり、30年後の子供達に残していきたいと考えている。
第3回 吉野川流域市町村長の意見を聴く会での主な意見	下流域・徳島市会場（全般・その他） 開催日…平成20年1月27日
	◆基本方針と整備計画の乖離について速やかに検討に着手すべきと考える。◆森林に対しては、住民も植林等に協力すべきである。 ◆濁水、堆砂対策として、森林管理も河川整備計画に含めるべき。◆森林保全について、専門家や林野庁など、関係機関の同席の上で議論を行う場が必要だと考える。 ◆平行線な議論が続いたとき、判断する第三者機関がいるのではないかと。分科会を開催し、議論を深める必要性があるのではないかと。 ◆議論する場の設置を求める声もあるが、洪水による被害が発生した場合どうするのか。議論を続けるよりも早期着工をお願いしたい。
	下流域・徳島市会場（追加開催） 開催日…平成20年2月3日
	◆森林整備によって浸透能力が向上し、流出時間を遅らせピーク流量を減らすことができるのではないかと。 ◆吉野川の代表的な生物であるアユについて指標として位置づけるのは難しいと認識しているが、現状を把握、認識するところまでは素案に記載してほしい。 ◆目標時期を明確にしてもう少し現在のやり方で続けても良いのではないかと。 ◆延々と会議を続けていても仕方がない。公平性・透明性・中立性を確保した評価する機関が必要である。 ◆会のあり方について議論するよりは、地域住民の生命と財産を守る事を優先に考えてほしい。 ◆国交省に対して、森林のような農林省所管の問題を提起するのは無理であり、住民も理解すべきである。
第3回 吉野川流域市町村長の意見を聴く会での主な意見	上流域・土佐町会場 開催日…平成20年1月16日
	◆はやく事前放流ができるよう施設を改善してほしい。 ◆上流域の直轄管理区間編入は、あきらめていないとの認識は理解願いたい。県の整備計画の策定にあたり、県への指導をおねがいしたい。 ◆排出土砂の有効利用も含めて検討して頂きたい。 ◆整備計画の中で濁水、ダム施設の改良について具体的な取り組みを計画に明記するようにしてもらいたい。
	下流域・徳島市会場 開催日…平成20年1月28日
	◆住民は浸水に対して不安を感じているため、河川整備計画に高い関心を寄せている。30年計画とは言わず、早期に整備が出来るよう予算の確保をお願いしたい。 ◆安定した水の確保が最優先である。◆早期に河川整備計画を策定し、整備に着手して頂きたい。 ◆阿波市の勝命に無堤区間が2kmある。早期の築堤を要望したい。 ◆洪水の越水や高潮等に対応するため、さらにきめ細やかな河口堰の操作をしてほしい。 ◆100年確率に対応するものを作って頂くことが望ましいが、現実的に困難であるため、暫定的・段階的でも構わないので整備を着実に進めて頂きたい。
第3回 吉野川流域市町村長の意見を聴く会での主な意見	中流域・美馬市会場 開催日…平成20年2月6日
	◆中流部の首長、住民としては、早期に整備計画を策定し、築堤に着手してほしいというのが願いである。 ◆吉野川の利水について、安定的に確保出来るように流水管理をして頂きたい。 ◆銅山川の無水区間に環境用水の供給をしてほしい。 ◆堤防が完成すると、内水の問題も懸念されるので、排水ポンプ場の建設や排水ポンプ車の配備など計画の中に踏み込んで頂きたい。



吉野川河川整備計画については、<http://www.yoshinoriver.info> に示しています。

ふる～ぶ編集後記

源流域で豊かな森、ふるさとを愛し、生き続けている人がある。そんな方たちと出会えたことは、編集部やふる～ぶめいどの方たちにとって、とてもよい時間となりました。（か）

大川村でいただいたたいけ、本当にふりふりびっくりしました。しいたけでふりふりという表現はなかなか使わないのですが、間伐の大切さも学び、充実した一日となりました。（や）

「ボンネットバス」

今年も、3月1日から、11月30日まで相谷街道をボンネットバスが走ります。従来の西相谷コースだけでなく、今年は4月より、土、日、月は、奥相谷の秘境を巡る東相谷コースもあります。

写真提供：四国交通

お問い合わせ：TEL0883-72-1231（四国交通）

今月の表紙イラスト

🎁 竹とんぼプレゼント

竹細工教室で講師としてお世話になっている、ふる～ぶめいとリーダー長江順次さんが作成した竹とんぼを抽選で2名様にプレゼントします。ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は4月30日（水）です。

〒771-1156
徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる～ぶ編集部「竹とんぼ」プレゼント係



ふる～ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅、株式会社阿波銀行の一部の支店と株式会社ファミリーマートの一部の店舗に置かせていただいています。皆様ご愛読ください。